

## 第 4 回 第 6 期中原区区民会議 課題調査部会 会議録

日 時：平成 29 年 2 月 22 日（水）午後 2:30～4:30

場 所：中原区役所 5 階 505 会議室

出席者：梅原副部長、伊藤委員、内田委員、児玉委員、田邊委員、関口委員、  
鈴木（晴）委員

【委員 7 名】

高橋副部長、村田危機管理担当課長、鈴木企画課長、中野職員

【事務局（中原区役所） 4 名】

岩下【コンサルタント（株カイト） 1 名】

## 1 開会

開会宣言

資料確認

会議の公開について

## 2 会議録確認委員の選任（進行：梅原副部長）

これまでの会議と同様に「部会長・副部会長を除いた名簿順で会議ごとに 1 名の委員を指名」の原則に基づき、田邊委員が勤めることとなった。

## 3 検討テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に関する調査検討について

（進行：岩下（コンサルタント））

【意見交換】

## ■提案 I 関連「防災訓練」について

内田委員 昨日、国際交流センターの防災訓練に参加した。親子サッカードリーム教室への体験型防災プログラムの導入については、会場を見てみないとわからないが、イメージを中森委員と立ち話していた。国際交流センター地下では暗闇体験をされていて、蛍光ブレスレットが本当に役立つことが分かった。手元もぼんやりだが明るくなるし、机等の角などに危険な箇所には張り付けておけば、激突防止にもなる。

アルファ化米などの非常食の試作・試食もあった。私は食べられなかったが、ラーメンもあって、かなりおいしかったようだ。採り入れてはどうか。

またロープ結びを習うコーナーや、親子を対象にトイレや水道などのサインづくりなどすれば良いアイデアが出てくるのではないかと考えた。サッカー教室のグラウンドから見るところで展開できれば良いのではないかと考えた。

避難所運営ゲーム（以下、HUG）については、もう少し知りたいところだ。

伊藤委員 昨日うちの町会で、理事会の 50 人くらいが HUG を体験し、非常に評判が良かった。予定より時間がかかったが、もっとやりたかったという声が多かった。カードに避難所運営上の様々な課題が書いてあり、最初は簡単なのだが、だんだん難しくなってくる。予め全ての課題が分かっていると良いのだが、現

実はそうはいかず、来たものから対処していくと、ぐちゃぐちゃになってしまうことが良く分かった。例えば一度決めた避難者の配置も、何日か後にもっと重度の人がくると最初にいた方に移動をお願いすることになる。テーブルの上に避難所の施設図面、体育館や校庭、校舎が示されて、様々な配置を考えていく。最初は使える施設を考えるとところから始まり、例えば理科室は危険な薬品などもあるので、立入禁止にした。避難所の運営委員や区民会議委員など、より多くの方々にぜひ経験していただきたい。

**事務局** HUGの区内実施例は、自主防災組織単位が一番多い。次が避難所単位で、老人クラブや町会単位などで実施例もある。実施例は増えてきているが、区の担当が数名しかない状況で、土日もありかなり費やしておりこれ以上職員が出向いて実施は難しい。

**伊藤委員** より多くの方に集まっていただこうとすると、土日の開催になりがちだ。私の町会では無理をしないで開催しようということで、通常の理事会の中で実施した。毎年繰り返していければ、体験者は増えていく。

**コンサルタント** HUGを行う為のカードキットがあり、区役所でも所有されている。要請があれば職員を派遣して実施しているが、現状では体制面などから限界もある体制ということか。例えばキットがあれば貸し出しを行い、地域だけでもできるのか。

**伊藤委員** 経験者が何人かいれば、充分地域だけでも実施できると思う。私の地域でも、婦人消防団などの経験者が、「こうすれば良い」とリーダー役になっていた。

**鈴木委員** カード形式ゲームで「クロスロード」というものもある。「HUG」をやる前に「クロスロード」ができるより効果的だ。静岡の防災センターで体験したが、災害発生時にいろいろな考え方の方々が集まってくる中で、意見をまとめ、決断していくということはどういうことか、疑似体験した。何が正しい、間違っているというわけではなく、少数の意見も大切にしていける必要性がわかる。カードを題材に話し合っていくHUGと同じような仕組みのゲームだ。

**内田委員** 私の地域では一昨年に小学校で3町会の避難所開設訓練を実施した。各班に分かれて、部屋の仕切りや受付の模擬設置訓練を行った。受付では備蓄倉庫にあった受付シートを使ったが、「こんな個人情報まで書かなければならないのか。」とまず揉めた。自己責任の中で書ける範囲で書いてくださいと対応したのだが、こういうこともやってみないとわからない面がある。

**コンサルタント** 親子サッカードリーム教室で実際に行うプログラムについては、フロンターレさんとの協議や現場確認などが必要であり、この場で全て決められない。しかし、検討したいプログラムの種については、前回、今回の討議の中でかなり出してもらったと思う。

中原区の総合防災訓練をどのようなものにしたらよいか、他に意見はあるかまた今出た「HUG」や「クロスロード」の実施拡大を推進していくということも提案になるのではないかと。

**事務局** 中原区総合防災訓練については、来年度実施することは決まっているが、詳細は決まっていない。現在考えているのは2回開催し、1回はどこか避難所となる学校施設で夏休み中に開催して、宿泊企画も交えながら、避難所の開設や運営の模擬訓練を実施したい。もう1回は年明けに、同じような訓練をするかもしくは区内でも山坂の

多い、川の近く、工場の近くなど特色のある地域で実施していくのはどうかなど検討しているところだ。

**内田委員** 宿泊をイメージしているのでしょうか。

**事務局** おやじの会などが活発な地域からの開催要望もある。

**内田委員** 夏の夜であれば、暗闇体験などもできそうだ。昔は肝試しなどがあった。

**伊藤委員** 都会に住んでいると本当の暗闇というのはなかなか体験できない。

**梅原副部長** 地下室があれば、真暗になる。

**コンサルタント** 井上部会長はスタジアムの中には真暗になるところもあると言っていたと思う。暗闇体験、非常食の試食などは今日新たに出たプログラム案かと思う。「HUG」の前段階として「クロスロード」の実施も意見が出た。これらは親子サッカー教室と同時実施に限らずということが良いか。夏休み中の総合防災訓練については、サッカー教室で実施するプログラムと同じような考え方で良いか。

**事務局** 一つ心配なのはサッカー教室の方はやはりサッカーがメインなので、夏休みの総合防災訓練とは、参加の呼び掛けや参加者の意識が変わってくるのではないかと思う。集客なども不安だ。

**内田委員** 防災クイズなど魅力的にしたい。楽しそう、見ているだけでも参考になるものにしたい。

**事務局** 学校では交通安全教室は行われているが、防災教室というのはない。教育委員会との絡みもあるが、防災をもっと学校で学べるようになれば良い。

**田邊委員** 学校でやるのは避難訓練にとどまっている。それに加えて一つでも何か訓練ができると思う。罹災経験者の話を聞くのも良いかと思う。被災した子ども達も大きくなって自分の言葉で体験談を話せるようになってきている。

**伊藤委員** アルファ化米も良くかきまぜないと味が偏ったり、堅さが不均等で食べられなかったりする。説明書きがあるが、なかなか読まない。混ぜるのに大きなしゃもじがあると良かったり、熱いお湯を一度にたくさん入れるのが大変だったり、一度やってみないとわからないことがたくさんある。うちの町会ではお菓子屋さんから大きなヘラをもらって備えている。備え付けのものもあるが、それよりも柄が長く、扱いやすい。

**事務局** アルファ化米は実際の災害時には結構手間がかかる、そればかりだと飽きるとい声もある。特に災害発生直後については、手間をかけずに栄養価の高い、例えばビスコや宇宙食のようなものの方が実用的ではないかという声が増えてきている。価格面や保存面から総合的に検討する必要がある。

## ■提案Ⅱ関連「中原区総合防災マップ」について

**内田委員** 身近に感じることで、災害発生時にどうしたらいいのかを重視すると、資料の8～9ページなどに掲載されている火災予防などの情報は無くても良いのではないかと。災害が起きた時のことを重視して、削除できることはして良いと思う。

**コンサルタント** 確かになんでもかんでも詰め込めば良いということではない。

**内田委員** 例えば3日分の備蓄を各家庭できる方法などはもっと普及推進したい。あるところで、一人の1日の排泄量はこのくらいで、家族4人で3日ではこれだけの量に

なるということを見せられたことがあるが、そうしたことを掲載している資料は少ない。緊迫したことをあまり行ってはいけないのか。

伊藤委員 本当は一番必要なことのようにも思う。

内田委員 恐怖心をあおってはいけないという話もあった。

コンサルタント 恐怖心はもってほしくないが、危機感はもっともっていただきたい。さじ加減が難しい。

内田委員 盛り込んでも良いと思う。

梅原委員 意識のある方、リーダーに見せる情報と、一般のまだ意識の無い方に見せる情報というのは違って良いと思う。

コンサルタント 来年度、区で考えている取組は全戸配布か。

事務局 そうだ。

梅原委員 目次だけでなく、索引があると良いと思う。困り事から何ページを見ればよいかわかるようなものがあると良い。「水」「トイレ」など。

田邊委員 どんどんページが増えてしまいそうな気がする。何を盛り込むかは難しい。

コンサルタント いろいろな意見があるが、ページ数はできるだけ抑えた方が良いというのは共通認識か。

児玉委員 目次の中に索引も盛り込めるような形が良いと思う。個別にやっていたら、どんどんページが増えてしまう。

田邊委員 自分の地域の地図や自分にとって必要なページに付箋やシールなどが付けられるしかけがあると良い。書き込むとなるとちょっと億劫だ。

児玉委員 お年寄りには細かい作業は難しくなってくる。シールが予め用意されていると作業が楽になるかと思う。

コンサルタント スケジュール帳についているシールや付箋などイメージか。印刷費等の問題はあと思うが、アイデアとしては良いかと思う。

事務局 今回、提携するゼンリンは地図会社なので、まず地図が中心になる。それ以外に、災害発生時の心得や備えについて掲載する。シールやマグネットなどの意見も出たが、冊子の中でのとなると難しいかもしれない。別途製作するなど提案する形も考えられるのではないか。

内田委員 参考資料の福岡市の「こどものための防災マップ」は大人に対しても良い内容だと思う。「家庭のため」といっても良いかもしれない。子供向けに作成されていることで、中森委員が言っている「やさしい日本語」にも繋がりそうだ。素晴らしい資料だ。防災訓練の企画などでそのまま使えるページもありそうだ。

#### ■提案Ⅲ関連「情報発信・PR」について

内田委員 避難所に誰もかれも来られたら困ってしまう。自宅で過ごせる人は過ごしてもらい、本当に困っている人が避難所に来る。避難所の環境は悪いということを知ってもらいたい。

児玉委員 普段からもっと避難所についてはお話をしていくことが必要だと思う。避難所に行けば何でもあると思わないでくださいと。

伊藤委員 これだけしか備蓄がありませんとオープンにする。それが一番効果的だ。

内田委員 寝ている時に、枕元にヘルメットや懐中電灯、運動靴を置いていますかとい  
つてもなかなかそこまでやっている人はいない。

児玉委員 私は寝床に近いところに置いている。

梅原委員 実際にみんなが避難所に来てしまったら入れない。

内田委員 避難所に来ても全てあるわけではない。お世話になるより、お世話しよう  
というメッセージを伝えたい。自宅待機なども推奨したい。

関口委員 避難所は全員が入れるわけではない。ではどうすれば自宅で過ごせるのか。  
どういう備えがあれば良いのか、伝えられると良いと思う。

コンサルタント 普段から食料備蓄などしていて、建物も無事だった人は、電気・水道  
などが止まっても、自宅で生活できるはずだ。「自宅避難の薦め」といったような  
情報提供が必要だ。

内田委員 最近ない種類の情報発信になると思う。隣近所の人とは普段から仲良くして、  
何かあった時にお互いに安否確認できるようにしようというメッセージも出したい。

関口委員 3月25日に下沼部小学校で、親子で泊まり込みの防災訓練をPTA主催でやる  
そうだ。こうした情報をもっと知られればと思うが、区役所ではどのくらい把握して  
いるのか。

事務局 区役所に相談や協力依頼があったものについては把握している。把握した情報  
を全て公開はしていない。把握している範囲での発信は可能かと思う。

関口委員 どこに相談したら、そういう訓練ができるのか、どこで訓練をしているのか、  
参考になる場合もあると思う。

内田委員 やり終わった訓練については、自主防災組織の総会などで報告している。で  
もこれからある訓練については、運営側も自分たちの事で手いっぱいな面もあると思  
う。下沼部小の訓練については、関口委員はぜひ参加いただけると良いと思う。

伊藤委員 どこか団体を主体にして参加者の募集をしないと、なかなか参加者が集まら  
ないのが実情だ。不特定多数に呼びかけてもなかなか人を集められない。他地域の方  
でも、事前に見学希望があれば、受け入れは可能だと思う。

内田委員 待っているだけでなく、アクションにつながるようなものにしたい。

事務局 前期の提案ではスケアードストレート方式の交通安全教室をより多くの区民が  
体験するために、学校の授業参観に合わせて実施してはどうかなどの提案も頂いた。  
そうした検討も可能かと思う。

コンサルタント 訓練開催情報の発信・共有ということか。

伊藤委員 町会は掲示板に掲示しているが、見ている人は限られるのか。

梅原委員 他の町会の開催情報まではなかなか分からない。

伊藤委員 他の地域の方でも電話一本いただければ、見学など歓迎されると思う。

内田委員 町会と繋がりがない人、町会長が誰かも知らない人もいる。

梅原委員 担当者が毎年変わる町会もある。誰が当番かは分からないが、地域の方は知  
っている。

事務局 お祭りはいつですかという問い合わせはあっても、防災訓練はいつですかとい

う問い合わせはなかなか無い。

#### ■提案Ⅵ関連「無事ですカード」について

**伊藤委員** 「無事ですカード」ですが、最近はマグネットがつかないドアも増えてきています。ドアノブ等から吊り下げられるように穴が開いていると良いと思う。

**内田委員** シール形式も考えられるのではか。そうすれば提案Ⅱの冊子の中に盛り込めそう。索引の件は色分けなどもうまく工夫したい。スケジュール帳などについているシールが大きくなるイメージだ。

**梅原委員** 書き込みできるものを作っておいて、避難所などでも利用できるようにしたい。

**田邊委員** 避難しますという「無事ですカード」だけでなく、自宅にいますという「無事です」カードも必要だと思います。

**コンサルタント** そういった欄を一つ足せば良いですね。

**内田委員** 実際の地震後には、建築物の応急診断が行われます。倒壊危険性のある建物には黄色や赤い紙が貼られます。赤は倒壊危険性が高く、近づいてはいけない建物です。高津区の無事ですカードは黄色いデザインになっているが、「無事です」という意味を考えると緑などの方が良いと思う。

**コンサルタント** 「無事ですカード」は、もともと安否確認する側の視点から、本当に支援が必要な家を少しでも早く発見する目的でつくられたものだ。「自宅に居て、無事です」ということも出せるのは必要な機能だと思う。

#### ■提案Ⅶ関連「街中の掲示マップ」について

**内田委員** 公園が掲載されているが、実際の災害時に公園で避難生活をする方が多いと聞いた。何が良いのか。

**児玉委員・伊藤委員** トイレや水道があつたり、ある程度広場があるので建物倒壊の危険性が無いなどが理由かと思う。

**コンサルタント** 大きな公園は一時避難場所になっている例もある。災害発生時に一時的に集まる場所。避難生活をする場所としては、本来予定されていない。

**事務局** 公園は建設緑政局の管理になっている。ある程度の大きな公園にはトイレや水道があるが、それがない小規模な公園も沢山ある。そうした公園の災害時の活用としては、建物の倒壊や何かが落ちてくる可能性が低い、火事などの延焼も防げるということでの一時避難場所としての利用が想定されている。しかし実際に災害発生時には車で公園に来て、そこで生活してしまう事例なども多く、その対応については、議論が止まってしまっているのが現状だ。

**鈴木（晴）委員** 災害時にはベンチがかまどになるなど、災害対応の公園の例も他都市では聞くが、川崎市には無いのか。

**事務局** 東京都の新宿区や渋谷区で公園に防災の機能を持たせた「防災公園」の整備を行政主導で進めている例があるが、公園の防災利用戦略については、川崎市ではまだ決まっていない。

事務局 参考資料4は駅の近くに掲示されている案内マップ。毎年内容を更新しているものでもあり、これまでのご意見の中から、例えば想定浸水区域などの情報を追加することなども可能なのではないかと思ひ提示した。避難所の対象地域がわかるようにするなど考えられる。

伊藤委員 避難所のエリアが色分けなどで提示できると良いと思う。

事務局 見やすい形で検討したいと思う。

伊藤委員 ぜひお願いしたい。

事務局 この地図にはAEDの設置場所も表示されているが、以前は高層マンション内などのものも表示されていた。しかし必ずしも一般の人が入れる場所ではないということで、調査し、公共で利用できるもののみにした経緯がある。毎年改善と工夫を図ってきているところだが、災害時にももっと役立つようにするアイデアがもしあれば、いただきたい。

田邊委員 現状で、様々な情報が掲載されている印象だ。

事務局 まだ街角でなかなか見かけることもないが、最新技術だとデジタルサイネージとって、デジタル画面上で、災害発生時は画面が災害時に必要な情報に切り替わるようなものもある。

梅原委員 ボーイスカウトで外出などの際にまず確認するのは水とトイレ。水とトイレがどこで確保できるかの情報は欲しい。

コンサルタント 公衆トイレはこの地図に入れられるかもしれないね。

事務局 いくつか公衆トイレがある大きな公園がある。地元の人が公園へのトイレ設置を嫌がる例も多く、ある程度大きな公園でないとなかなか設置できないのが実情だ。

本日、企画課と小学生が駅からスタジアムまでを一緒に歩いてユニバーサルマップをつくる取組が行われている。例えばこのコンビニにはトイレがあるが、車いすの方は使えないなどチェックしている。情報は載せすぎてもごちゃごちゃしてしまうので、ある程度取捨選択が必要だ。

関口委員 私も孫を連れて歩いていて、どこにトイレがあるか事前に把握していないと大変だということを実感した。急におしっこといわれても困ってしまう。普段から必要な情報かと思う。

鈴木（晴）委員 過去にDIGで地域の様々な情報を地図に落とす取組に参加したが、そうした場で吸い上げられた情報はどこかで活かされているのか。何か活用できる情報があると思う。地区によって必要な情報が出てきているのではないかと思う。拾っていただけるとありがたい。

事務局 先ほどデジタルサイネージの話があったが、最近では区のホームページなどもパソコンからよりもスマートフォンからアクセスしている方が多い状況だ。まちかどに設置する地図にQRコードを掲載して、二次的に特定の情報にアクセスさせる方法も考えられる。

内田委員 QRコードにすれば必要な情報に必要な人がアクセスする。

事務局 災害時の情報のやりとりについてもSNSの方が繋がりやすかったということもあるようだ。東日本大震災の時には電話回線は繋がらなくなり、メールなどの方が繋

がったようだ。

4 その他（事務連絡）

5 閉会

(以上)